



**CARBON
RECYCLING
FUND INSTITUTE**

一般社団法人カーボンリサイクルファンド
東京都港区西新橋三丁目2番1号Daiwa西新橋ビル3階
Tel: 03-6432-0011
URL: <https://www.carbon-recycling-fund.jp>
E-mail: info@carbon-recycling-fund.jp



Carbon Recycling Fund Institute

CO₂を資源として利用し、イノベーション創出に貢献

一般社団法人カーボンリサイクルファンド設立の背景及び趣意

地球温暖化問題については、NO_xやSO_xなどの大気汚染問題と異なり、地球全体でCO₂排出量を減らしていくことが重要であり、これまでの規制による対策のみでは解決が不可能です。

また、世界の約10億人が、電気の恩恵に供しておらず、エネルギーのアクセス改善が大きな課題となっています。

このような状況下、CO₂を資源として捉え、カーボンリサイクルイノベーションを推進するというカーボンリサイクル政策が我が国のエネルギー政策の重要な要素となってきています。近年、CO₂が悪者扱いされてきましたが、今後はむしろ積極的にCO₂をカーボン源として利用していき、2050年カーボンニュートラルという目標達成に向けて、一層の努力を行う必要があると考えています。

2019年（令和元年）8月30日に民間ベースで「一般社団法人カーボンリサイクルファンド」を設立し、地球温暖化問題と世界のエネルギーアクセス改善の同時解決を目指し、カーボンリサイクルに係る研究助成活動や広報活動等により、カーボンリサイクルイノベーション創出支援を行うこととしました。

概要

名称：一般社団法人カーボンリサイクルファンド

設立日：2019年(令和元年) 8月30日

主たる事務所：〒105-0003

東京都港区西新橋三丁目2番1号 Daiwa西新橋ビル3階

会費種別（年会費）：

法人会員：20万円 / 個人会員：1万円 / 自治体会員：－ / 学会会員：－

会員一覧

最新の会員一覧は別紙またはホームページをご確認願います

会長	福田 信夫（三菱ケミカル(株)代表取締役）
副会長	北村 雅良（電源開発(株) 特別顧問）
最高顧問	小林 喜光（東京電力ホールディングス(株) 取締役会長）
顧問	橋川 武郎（国際大学 副学長）
専務理事	橋口 昌道
理事	丹生谷 晋（出光興産(株) 代表取締役副社長）
理事	須山 千秋
監事	武田 孝治（(株)IHI 常務執行役員 資源・エネルギー・環境事業領域長）

カーボンリサイクルファンドの活動

Carbon Recycling Fund Institute

I .広報活動

II .研究助成活動

III .事業支援、政策提言、情報調査等

会費、寄付

会員

異業種連携
イノベーション促進
社会実証

地方創生

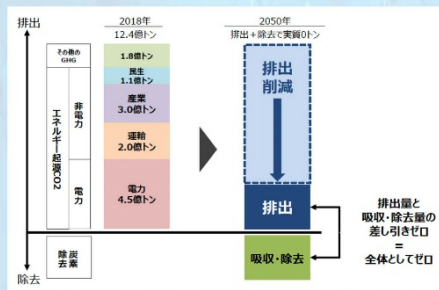
国際連携

支援

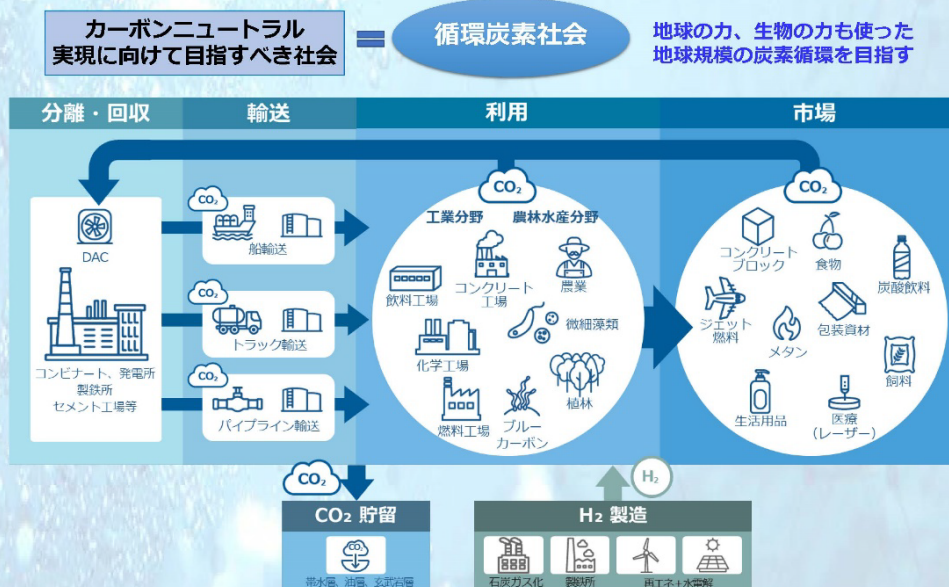
貢献

循環炭素社会の実現に向けて

- CO₂の排出量と吸収・除去（利用、固定）量をバランスさせることが重要です。
- 排出削減のみならずCCUS/カーボンリサイクル、森林、海、土壌への吸収が鍵です。
- CO₂の発生源から回収・輸送・利用・貯留までのCO₂バリューチェーンの構築が重要です。



カーボンニュートラルのイメージ
（出典：経済産業省）



活動紹介

(I) 広報活動

Webサイトをはじめとする多様な媒体を通じて、国内外の最新の情報を提供するとともに、国際展示会への出展、各種メディアと連携したイベント・シンポジウム・研修会の開催等を行い、カーボンリサイクルに係る啓発活動等の広報活動を行います。

Webサイト等での情報発信



カーボンリサイクル大学



カボ・リサ物語



カーボンリサイクルオンラインサロン

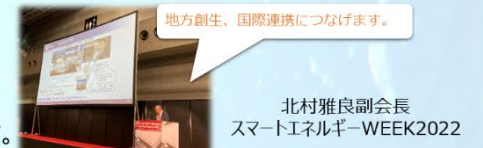


カーボンリサイクル大学とは、課題解決型思考人材の育成を行う教育プログラムです。

- 会員企業から毎年約20名が参加
- スタートアップ企業とのコラボレーション
- 成果発表及び異業種交流

展示会シンポジウム等への参加

寄付特典
循環炭素の意義等をトップから世界へ発信、並びに展示会に参加してCR普及活動を行います。



(II) 研究助成活動

寄付特典：審査過程の確認や審査への参画が可能

カーボンリサイクル技術の実用化には、コストの課題、国際競争、基礎的研究への資金等の様々なハードルがあります。課題を乗り越えてイノベーションを創出しようとする研究者やスタートアップに向けて、グラント（助成金）の交付や会員とのマッチング等、研究助成活動を行っています。また、様々な取り組みの社会実験を目的とするワーキング活動を推進しています。

	概要
助成対象	企業、大学、法人等に属する研究者又は研究者チーム 2022年度からは、スタートアップ支援枠を新設
募集テーマ（具体例）	社会的課題を解決するため、CO ₂ （あるいは炭素原子）を資源として利用する、炭素回収・利用・貯留（CCUS）技術の開発、CRを実現するための社会科学分野等に関する研究 （具体例） - CO₂分離回収（直接空気回収）・固定化技術（鉱物化等） - 燃料・化学品へのCO₂転換技術 - 社会科学やカーボンリサイクル普及に向けた制度設計等の分野 - 炭素資源（プラスチック等）の循環に係る技術 - 生物等を活用した技術（細菌・バクテリア・バイオミミックス等含む） - カーボンリサイクルの価値向上に係る技術 - CO₂吸収源（土壌、森林、植林、ブルーカーボン、農林水産等）活用によるネガティブエミッション分野 - その他（水素製造・アンモニア製造、気候変動対応に資する技術等）
評価ポイント	独創性・革新性・従来技術に対する優位性、課題設定の仕方、企業との連携などの社会実現可能性等
助成規模	1,000万円程度/件（平均助成額約700万円/件）
応募・採択件数	2020年度：35件応募→12件採択、2021年度：46件応募→12件採択 2022年度：一般公募55件→14件採択、スタートアップ枠29件→2件採択
研究成果の帰属	基本的に研究者に帰属

- ✓ 国プロジェクトに繋がる採択テーマも年々増加中です
例）NEDO（新エネルギー・産業技術総合研究機構）、グリーンイノベーション基金、JST（科学技術振興機構）などの国プロジェクト

(III) 事業支援、政策提言、情報調査等

カーボンリサイクルの社会実装・事業化に向けて、事業支援や国のエネルギー・環境・技術開発政策に対する提言等を行っています。また、カーボンリサイクルやCCUSに係る世界の最新ニュースをピックアップし、会員向けに毎週数十本を配信しています。

○カーボンリサイクル社会実装の具体化（社会実装ワーキング）

- ✓ カーボンリサイクルバリューチェーンを繋ぐ活動を社会実装ワーキングを通して実施
- ✓ 各地方の強みを活かして、地場産業の活性化に資するカーボンリサイクルの在り方を検討

